

西暦	干支	元号	年号		出来事
1740	庚申	元文	5	島原藩・松平氏預かり	島原城主松平忠刻、天草初巡視
1741	辛酉	寛保	1		
1742	壬戌	寛保	2		
1743	癸亥	寛保	3		江間新五右衛門、地役人となり山方役を勤める
1744	甲子	延享	1		
1745	乙丑	延享	2		
1746	丙寅	延享	3		將軍代替わり西国巡見使下向 天草の人口74,657人
1747	丁卯	延享	4		細川重賢熊本城主
1748	戊辰	寛延	1		
1749	己巳	寛延	2		鈴木神社石造り社殿新建
1750	庚午	寛延	3		新島原城主、下野国宇都宮城主戸田忠辰と国替え 天草は戸田氏預かりとなる 富岡町人口1913人、家373軒
1751	辛未	宝暦	1		
1752	壬申	宝暦	2		高浜村砥石、小田床陶土年季請負願い許可される
1753	癸酉	宝暦	3		

西暦	干支	元号	年号	出来事
1754	甲戌	宝暦	4	戸田忠寛島原城主
1755	乙亥	宝暦	5	上田宜珍生れる
1756	丙子	宝暦	6	
1757	丁丑	宝暦	7	
1758	戊寅	宝暦	8	
1759	己卯	宝暦	9	諏訪神社山口村より現在地に移転、大祭に農具市開催(本渡の市の起源)
1760	庚辰	宝暦	10	中村頤亭、御領に正倫社開く
1761	辛巳	宝暦	11	全郡人口、89982人
1762	壬午	宝暦	12	上田伝五右衛門、鷹巢山に陶ガマを築く
1763	癸未	宝暦	13	
1764	甲申	明和	1	
1765	乙酉	明和	2	楠浦前潟新田一応竣工 水ノ平焼起こる
1766	丙戌	明和	3	楠浦村前潟新田、開墾主猪原兼兵衛、牛深村万屋助七に譲渡 島原、長崎で大火 原城址にホネカミ地藏建てられる
1767	丁亥	明和	4	日田代官揖斐政俊郡代に昇進、以後西国郡代所設置 田沼意次側用人

島原藩主戸田氏預かり

西暦	干支	元号	年号	出来事
1768	戊子	明和	5	島原藩に替わり日田西国郡代預かり(損斐十太夫)となる
1769	己丑	明和	6	熊本地方で地震相次ぐ
1770	庚寅	明和	7	郡中地役人25名を12名に減ず(遠見番8、山方役17を4) 大庄屋に苗字御免 損斐郡代8,500石(明和4年当時)の租税を年々増加し12,000石とする。
1771	辛卯	明和	8	平賀源内、陶石で陶器を製し海外輸出することを幕府に進言 出米騒動起こる。
1772	壬辰	安永	1	江戸大火相次ぐ 疱瘡流行、本戸馬場村59人隔離 田沼意次老中 日田郡代預所を日田郡代兼任代官所と名目替
1773	癸巳	安永	2	疱瘡本戸馬場村新たに9人罹患
1774	甲午	安永	3	戸田氏と松平氏国替え、松平氏島原城主復帰 天草は西国筋郡代委靡氏の兼帯続く 杉田玄白解体新書
1775	乙未	安永	4	町山口村で大火、民家86軒焼失
1776	丙申	安永	5	アメリカ合衆国独立宣言
1777	丁酉	安永	6	大風大雨相次ぎ耕地損壊、凶作
1778	戊戌	安永	7	島子で切支丹発覚、4名捕らえられる 御領村銀主小山清兵衛、救穀米供出奇特と合って、子孫まで苗字許される
1779	己亥	安永	8	桜島大噴火、死者1万6千余人 阿蘇山も噴火
1780	庚子	安永	9	
1781	辛丑	天明	1	富岡町で蔵元騒動起こる ために、蔵元を郡会所と改称し、大庄屋交代で勤める(2名)

日田西国郡代預かり

西暦	干支	元号	年号	出来事
1782	壬寅	天明	2	天明の大飢饉(虫害・洪水・冷害)。
1783	癸卯	天明	3	島原藩預所となる 浅間山大噴火 凶作続く 町山口村に疱瘡流行、罹患43人
1784	甲辰	天明	4	全国的に大飢饉 天草の人口10万人を突破する。
1785	乙巳	天明	5	凶作続く 楠浦町山口村など各村に疱瘡流行
1786	丙午	天明	6	天明年間には郡内の田畑の3分の2は銀主2百数十人の所有となる
1787	丁未	天明	7	松平定信、老中主席就任・寛政の改革始まる 牛深村銀主万屋助七外4軒の家屋打ち壊し、債権書類などを焼却 諸国飢困
1788	戊申	天明	8	京都大火、18万3千こ焼失・皇居も炎上 鈴木社、石造りから茅葺き社殿拝殿に改建・重成、重辰、正三併祀
1789	己酉	寛政	1	富岡で大火、類焼500軒 楠浦村舟津で大火、40軒焼失 天草郡小前百姓3人、老中松平定信に筆訴 上田宜珍、庄屋となる
1790	庚戌	寛政	2	天草人口過剰のため、江戸勘定所より関東移民をすすめられるも希望者なし
1791	辛亥	寛政	3	
1792	壬子	寛政	4	雲仙眉山崩壊(島原大変肥後迷惑) 天草では18カ村で死者343人、怪我707人、死牛馬109頭、田畑損壊65町の被害をうける
1793	癸丑	寛政	5	
1794	甲寅	寛政	6	出米願いにつき一町田組今村・本戸組炉宇土村にて百姓騒ぎ立て
1795	乙卯	寛政	7	「百姓相続方仕法」発令(寛政の徳政) 天草の人口、11万人を超える 西目百姓拝借夫食米年賦返済方願い方として都呂々村に集結

島原主松平氏預かり

西暦	干支	元号	年号	出来事
1796	丙辰	寛政	8	西目百姓およそ300人一町田村に集結、地主、銀主宅を打ち壊し 天草郡百姓相続方仕法11か条公布 大庄屋に帯刀御免、庄屋・町役人に苗字永々御免
1797	丁巳	寛政	9	
1798	戊午	寛政	10	
1799	己未	寛政	11	
1800	庚申	寛政	12	志柿村で大火、100余軒焼失 被害者368人
1801	辛酉	享和	1	崎津村で疱瘡大流行
1802	壬戌	享和	2	干天・洪水で凶作
1803	癸亥	享和	3	
1804	甲子	文化	1	加藤民吉、高浜焼の秘法を探らんとし、東向寺天中和尚を頼り来島 御領村大島・小山清四郎開塾(正倫舎) 今富村に隠れキリシタン存在疑い
1805	乙丑	文化	2	今富村に続き、大江、崎津、高浜村にも隠れキリシタン存在発覚
1806	丙寅	文化	3	隠れ信者5,000人を数えるも心得違いとして穏便にすまされる
1807	丁卯	文化	4	加藤民吉、上田宜珍より高浜焼秘法を伝授さる 高浜村で疱瘡大流行 上田宜珍、大庄屋格に列せられる
1808	戊辰	文化	5	
1809	己巳	文化	6	

西暦	干支	元号	年号	出来事
1810	庚午	文化	7	富岡町・志岐村で疱瘡流行 伊能忠敬天草に来島し測量する。53日間・上田宜珍同行し、測量術を学ぶ
1811	辛未	文化	8	
1812	壬申	文化	9	世上不穩、小作米減少、庄屋減員につき越訴を説き、諸村を徘徊
1813	癸酉	文化	10	天草を長崎代官高木作右衛門が兼帯支配
1814	甲戌	文化	11	高浜村大火
1815	乙亥	文化	12	
1816	丙子	文化	13	魚貫村大火
1817	丁丑	文化	14	上田宜珍、陶石販売をはじめ 天草郡百姓相続方仕法11か条延伸
1818	戊寅	文政	1	頼山陽、西遊の途次千々石湾で暴風雨にあう。「泊天草灘」 全郡人口13万2205人 栖本村に吉田東壁開塾(学半舎)
1819	己卯	文政	2	
1820	庚辰	文政	3	赤崎村前田市右衛門、黒砂糖の製法、甘藷の苗を伝える
1821	辛巳	文政	4	出稼ぎの奨励 伊能忠敬の「大日本沿海実測地図・同実測録」完・伊能忠敬死去(77)
1822	壬午	文政	5	長崎でコレラ流行 寛政の相続方仕法は、郡中百姓の困難が続いたため公儀に願い出て、特に20年間の減税ある
1823	癸未	文政	6	牛深村大火 上田宜珍、「天草島鏡」を完成 鈴木社、鈴木明神の神宣状下附

長崎代官兼帯支配

西暦	干支	元号	年号	出来事
1824	甲申	文政	7	
1825	乙酉	文政	8	
1826	丙戌	文政	9	寛政の相続方仕法年限満期 銀主勢力を増す 天草の人口、14万余人に達する
1827	丁亥	文政	10	
1828	戊子	文政	11	未曾有の大暴風雨襲来、田畑、家屋、漁船などに被害が及び死者33 シーボルト事件
1829	己丑	文政	12	上田宜珍死去・75歳 千束蔵々島にて石炭試掘 大風、豪雨で耕地損壊・不作 人口、14万1,529人
1830	庚寅	天保	1	大雨洪水等で大不作 志岐、富岡で疱瘡再流行
1831	辛卯	天保	2	大雨で大不作 人口14万1,588人
1832	壬辰	天保	3	僧定舜、葵紋付の五条袈裟をあつらえたことで天草に流刑となる。 祇園橋竣工 頼山陽死去(53) 富岡大火・新休村東向寺焼失 人口、14万3,806人
1833	癸巳	天保	4	天保の大飢饉～39年 当郡デモ水害、干ばつ、虫害で大不作 本戸・一町田・大江組の百姓集結騒ぎ 御領村銀主石本平兵衛、勝之丞父子、初500石を郡窮民救済のため差出 その褒賞として、一生帯刀御免
1834	甲午	天保	5	崎津村で疱瘡大流行
1835	乙未	天保	6	
1836	丙申	天保	7	
1837	丁酉	天保	8	大塩平八郎の乱 郡中困窮、わずかながら餓死者でる

日田郡代支配(三か月)

西暦	干支	元号	年号		出来事
1838	戊戌	天保	9	長崎代官兼帯支配	大風・疱瘡流行 水野忠邦改革に乗り出す 人口14万2,782人、家総数2万2,485軒、牛1,475頭・馬9,153頭。 富岡町人口、2,765人、総家数、509軒。
1839	己亥	天保	10		牛深村で疱瘡大流行
1840	庚子	天保	11		大坂より流人40人送られる
1841	辛丑	天保	12		天保の改革
1842	壬寅	天保	13		坂瀬川の医師本郷玄成が上津深江村で種痘(人痘)を始める 富岡志岐で疱瘡大流行 高島秋帆事件・石本平兵衛、勝之丞父子連座し捕縛される 流人野口清兵衛住民による撲殺事件起こる
1843	癸卯	天保	14		石本平兵衛牢死(子勝之丞は昨年死去) 大矢野で百姓騒動 水野忠邦老中罷免
1844	甲辰	弘化	1		郡中に一揆、参加者数万
1845	乙巳	弘化	2		御領大庄屋長岡興成、農民の窮状を老中に直訴
1846	丙午	弘化	3		弘化の仕法出る 志柿村永野九郎兵衛、宮地岳村中西亀勇太、牛深村八田織右衛門、相次いで開塾
1847	丁未	弘化	4		弘化の大一揆、暴民1万5千余 日田代官竹尾清右衛門預所となる。 大坂表より流人25人送られる
1848	戊申	嘉永	1		上舜上人のための建碑 柏木辰五郎開塾
1849	己酉	嘉永	2		弘化一揆の首謀者として永田隆三郎ら処刑さる
1850	庚戌	嘉永	3		
1851	辛亥	嘉永	4	上原典礼ら医師20人、牛痘始める	

西暦	干支	元号	年号	出来事
1852	壬子	嘉永	5	
1853	癸丑	嘉永	6	ペリー来航
1854	甲寅	安政	1	ペリー再来航、日米和親条約締結 吉田松陰、米艦乗り込みを企て失敗、捕えられる
1855	乙卯	安政	2	遠島地除外を願い立てるも却下。現時点在島流人76人 大江、高浜、崎津、今富に疱瘡流行
1856	丙辰	安政	3	志岐村で石炭採掘に着手・出炭数夥し
1857	丁巳	安政	4	深海村大火。 勝海舟、練習航海で富岡に来る
1858	戊午	安政	5	楠浦村中心にコレラ流行 楠浦村舟津で大火、人家110軒焼失 勝海舟再来島、鎮道寺に落書き 幕府海軍、天草水夫約20人募集するも希望者なし
1859	己未	安政	6	安政の大獄 楠浦村庄屋宗像堅固、前潟新田を牛深村万屋より買い取る コレラ再流行 赤崎村庄屋北野織部、長崎外国人居留地埋立御用を請負う
1860	庚申	万延	1	桜田門外の変 宗門改め続行さるも踏絵は廃止される 人口155,000人-現本渡市域の家数3978軒、人高23670人 赤崎村庄屋北野織部、天草人夫1000人、沼船300艘をもって長崎大浦外国人居留場約2万坪の海面埋地に成功
1861	辛酉	文久	1	南北戦争 楠浦村庄屋宗像堅固、前潟新田釜の迫鑿河工事に着手 志岐村出石炭150トン肥後高瀬へ積み出す
1862	壬戌	文久	2	寺田屋事件・生麦事件 大風雨発生、家屋・田畑損壊甚だし、飢饉に陥るもの多し 1月長崎代官預け、6月新任命の西国郡代兼帯支配下 値賀紋水、本戸馬場村で私塾集義館開く(後の天草郡郷学) コレラ再三流行
1863	癸亥	文久	3	竹添荀園、町山口村で私塾誠文堂開く 薩英戦争起き、幕府は肥後藩に天草の警備を命じる(ただし、肥後藩常駐は1866年から) 郡中組々より薩摩への出稼ぎ人出発
1864	甲子	元治	1	楠浦村庄屋宗像堅固の前潟新田釜の迫鑿河工事完成 日田郡代窪田治部右衛門天草代官(兼任)となる。天領最後の代官 御領村大島の小山秀の進、長崎の大浦天主堂(国宝)を建てる
1865	乙丑	慶応	1	

西国郡代兼帯

長崎代官支配

西暦	干支	元号	年号		出来事
1866	丙寅	慶応	2	日田郡代	
1867	丁卯	慶応	3		大政奉還 長崎の漢詩人谷口藍田本戸馬場村明徳寺内に文学塾開く 過激派浪士約20人、富岡陣屋を襲撃、公金1万両前後を奪う 窪田代官、農兵組織「制勝組」の編成に着手 天草郡中、総高24493石余なるも実勢はその2,3倍に及ぶものと推定さる 坂本龍馬、中岡新太郎暗殺される
1868	戊辰	明治	1		戊辰戦争・五箇条の御誓文・江戸開城・東京遷都 富岡県 天草県 長崎府天草郡となる(37村に統合)
1869	己巳	明治	2	長崎県	版籍奉還 天草は長崎県の管轄に入る
1870	庚午	明治	3		天草も庄屋を廃止し、里正を置く
1871	辛未	明治	4		廃藩置県。長崎県の管轄から八代県に属す 天草から北海道へ移民
1872	壬申	明治	5	八代県	里正を廃止し戸長となる
1873	癸酉	明治	6	白川県	白川県に編入、村は大小区制になる 県出張所を富岡町から町山口村舟の尾へ移転 キリスト教解禁 天草でも小学校が各村々に開校する(9年まで)
1874	甲戌	明治	7		
1875	乙亥	明治	8		
1876	丙子	明治	9		白川県を熊本県と改称。熊本県天草郡となる 崎津で血税騒動起こる
1877	丁丑	明治	10		西南の役